

関係機関との情報共有システムの構築に向けた取組

～ 卒業後の生活を共に見据え、考えるために ～

熊本県立苓北支援学校

1 はじめに

重度・重複障がいのある児童生徒の将来の豊かな生活を実現するためには、医療、福祉との連携が必要です。本校では、隣接するはまゆう療育園をはじめ、各関係機関との連携強化に努め、情報共有システムの構築を図ってきました。ケース会議等を通して、日々の様子や将来像について情報を共有する一方で、「居室での授業」や「卒業生の情報交換会」等具体的な取組を行ってきましたので、その様子について紹介します。

2 居室での授業

昨年度、高等部で実施していた居室での授業を、今年度から中学部でも行いました。卒業後や日々の生活の中心となるはまゆう療育園の居室にて授業を行い、学校での学びが生活の中でどのようにつながっていくのか、共通理解をする場となりました。また、小学部では、はまゆう療育園の担当職員の方の授業参観を行い、学校での児童の様子を知っていただく機会を設けました。



居室での授業の様子（左：中学部 右：高等部）



授業参観の様子（小学部）

3 卒業生情報交換会

本校高等部を卒業する生徒を対象に、卒業後の生活にスムーズに繋げることができるよう、学校と家庭、はまゆう療育園の関係者間で情報交換を行いました。学校からは、これまで授業で使用してきた教材や映像を使って授業の様子をお伝えし、卒業後の生活について参加者で考えました。保護者と一緒に生徒本人も同席する会議もあり、今後の生活を見据え、継続的且つ具体的な支援について話し合う場になりました。



情報交換会の様子（生徒同席）



遠方から来校の保護者は、授業参観後に実施

4 おわりに

本校では、はまゆう療育園との連絡会（毎月実施）をはじめ、ケース会議（前期、後期）、訓練見学等を行いながら、通学生、在宅訪問教育生が関係する医療、福祉等の機関と連携を図っています。児童生徒のよりよい姿を具体的に思い描き、関係者が同じ方向性で支援を進めていくためにも、しっかりと今関わっている担当者同士で、「今の姿」から情報を共有することが必要ではないでしょうか。紹介したように、児童生徒を中心に教育、医療、福祉等のそれぞれの立場の担当者が、保護者の思いにも寄り添いながら、時間、場所を共有し、実際に顔を合わせ、共に考える機会を今後も大切にしていきたいと考えます。